令和元年度　第３回　廃棄物減量推進部会会議
発言要旨

【日　時】　令和２年２月１９日（水）１０：００～１２：００
【場　所】　西宮市役所　681会議室
【出席者】　全10名（欠席者なし）
【会議の概要】
会議成立の確認
　環境計画推進パートナーシップ会議委員７名中７名、委員外委員３名中３名の出席があり、会議が成立している旨の報告が行われた。

１．令和元年度第２回廃棄物減量推進部会の発言要旨の確認
①資料１に基づき第２回発言要旨の確認を行った。

２．ごみ組成分析調査の結果について
①事務局から資料２と一般廃棄物処理基本計画により説明が行われた。
・生ごみの分類を見直した結果、食品ロス自体が減ったのか。（委員）
→減ったのは、卵の殻や貝殻を食品ロスに含めるという単純なミスを訂正したためである。（事務局）
・平成29年度と令和元年度の組成分析の調査をしたのは何月か。（委員）
→生活系は、29年度は５月29日・６月12日、元年度は９月26日・30日である。事業系は、卸売・小売業は、29年度７月29日、元年度11月18日、宿泊業・飲食サービス業は、29年度９月28日、元年度10月８日、医療・福祉系は、29年度10月19日、元年度10月３日である。（事務局）
→特に食品は季節の影響が大きいので、時期をそろえないと比較が難しい。今後は配慮してほしい。（委員）
→季節によって出るごみは違うので、春と秋ぐらいで分析したほうがごみの動きが分かるのではないか。（委員）
→平成29年度と令和元年度は同じ地区からサンプルをとって経年変化を見ているが、季節の点は指摘のとおりであるので、今後意識して行っていきたい。ただ、業者に委託する関係でサンプル数を増やすことは難しい事情がある。（事務局）
・事業系は何件分を対象にして調べたのか。（委員）
→卸売・小売業は両年度とも阪急西宮ガーデンズ、宿泊業・飲食サービス業は西宮北口周辺の飲食店、医療・福祉系は西宮市立中央病院や民間病院及び福祉施設から出たごみである。（事務局）
→ガーデンズには卸売・小売業も飲食サービス業も入っているが、それは区分しているのか。（委員）
→全て入っている。（事務局）
→宿泊業のごみは組成分析しているのか。していないのなら「宿泊業」

と書かないか、書くのなら宿泊業のごみも調べるか、どちらかにしたほうがいい。（委員）

・詳しい組成分析結果が出ると、業種によってごみの内容が大きく違うので、事業者も工夫の仕方がよくわかっていい。ただ、表記と内容にずれがある気がするので、次回以降検討してほしい。（委員）

→卸売・小売業で手つかず食品が多く、飲食サービス業で少ないので、内部的な資料ならいいが、この表記のまま外に出ると業態と結果が合わなくて混乱するかもしれない。そこは検討したほうがいい。（委員）

→ガーデンズは複合施設で、卸売・小売業と飲食サービス業の両方にかかっているので、この分類をするときにガーデンズが適当かどうかの問題もあるが、事業系の組成分析については取扱いを慎重にしたほうがいい。（委員）

・予算制約があるからサンプル数を多くすることはできないのは分かるが、生活系も事業系もサンプル数が決定的に少ない。ばらつきの大きいものの平均値の信頼性を高めるためには数を増やすしかない。時期に関しては努力してそろえられる余地があるからそろえたほうがいいが、天候要因やイベント要因などいろいろあるので、ばらつきが出るのは仕方がない。生活系では２地区平均値を出しているが、ｎ＝２ならどういうデータが出ても有意はあり得ないので、平成29年度と令和元年度で差があるとは言えないと思う。何か言えるとすれば、生ごみの中の食品ロスの割合という比率の比率はもう少し安定するかもしれない。京都市や茨木市、大阪市などのデータを調べて、どの程度ばらつきがあるのかをきっちりと押さえておいたほうがいい。こういうデータに関しては、注釈や質問・答えも全部記録しておく必要がある。（委員）

→実際に業者には46項目の分類をしてもらっているので、このグラフと同時に詳細なデータもこの部会に出すかどうか検討する。サンプル数については、来年度の組成分析も今年度並みの予算しか確保できていないので、令和３年度の予算次第になる。（事務局）

→サンプル数を倍にしたところで大して改善しない。４倍にしてばらきつきが半分になるぐらいで、あまり効率がよくない。むしろデータの理由などを書き込むことが大切である。（委員）

・この組成分析はどういう活用をするのか。（委員）

→指定ごみ袋の導入などいろいろな施策をこれから実施することになるので、実施前がどうで、実施後はどうなったかを見るためである。（事務局）

→例えば生ごみの中の１割が食品ロスだと市民が聞くと、少し気を付けようと思うかもしれない。統計的に有意にするところまでいくと予算の関係があるが、やること自体には大いに意味がある。（委員）

・生活系の手つかず食品2,200トンは拡大推計したものであるが、西宮市

民１人１日当たり12グラムである。これは食品ロスダイアリーで行った数字とほぼ同じで、通常は展開検査のほうが食品ロスダイアリーよりも多く出る傾向があるので、いいところだと思う。さらに食べ残しも含めると、神戸市や仙台市とほぼ同じぐらいになる。国が出しているのは生活系・事業系合わせて食品ロスは約140グラムであるが、西宮市の場合は50グラムであるので半分以下である。データをもう一度チェックしたほうがいいかもしれない。不思議な気がする。可能性としては拡大推計のところが大丈夫かどうかである。（委員）

・京都市は京都大学と連携して、実際に出た食品ロスを写真に撮って一目で分かるように工夫している。市民には、数字だけを見せてもイメージが湧かない。（委員）

→京都市ではサンプルをパッカー車に入れずにトラックに積むのできれいな写真が撮れる。大東市でも写真を公表しているので、西宮市でもできないことはないと思う。さらに京都市では、例えば５本パックのソーセージのうち２本がごみとして出ている写真を見せながら説明すると、市民の共感も得られやすい。（委員）

３．分別区分・収集形態の見直しについて

①事務局から資料３により説明が行われた。

・２ページの破砕選別施設の「びん処理ライン」では、手選別で色を分けるのか。（委員）

→機械選別もあるが、調査により今の案では手選別がいいと考えている。今後、機械化が進めば採用もあり得ると思う。（事務局）

→業界では、機械選別で色選別に成功したところはあまりなく、技術が進むとも考えにくいので、手選別に勝るものはないと考えられている。（委員）

→大津市では週によって出す瓶の色が違っている。茶色でも薬の瓶は別になっていたり、白でも分ける必要があるという厳しいルールがある。（委員）

・瓶の回収について、毎週行っているのは伊丹市だけで、ほとんどが月１回である。西宮市も週１回を考えているようだが、量が少なくてもったいない気がする。（委員）

→その点は認識しており、毎週収集するだけの量があるのか疑問であるし、収集コストも考えなければいけないので、今後頻度を落とすかもしれない。収集区分についてはこの案でいきたいが、頻度や収集方法については検討する時間はある。（事務局）

・収集するのはパッカー車か。（委員）

→同じパッカー車で、午前中にカラス対策などのために可燃ごみの収集を終え、午後にほかの資源物を収集する形をとっている。瓶を平ボティーの車で収集することになると、車を用意しなければいけないので、

影響が大きいと考える。（事務局）

→パッカー車だと、瓶は割れてしまうのではないか。割れても手選別で色分けすることは可能なのか。（委員）

→現在は、不燃ごみとして他のものと一緒にガラス瓶を収集しているため、瓶の資源化率が非常に低い。今回の案ではガラス瓶単独なので、色別に選別できなくても、その他ガラスとして資源化は可能になる。（事務局）

→資源化業者としては、平ボディーで収集することがベストだが、袋収集も検討してほしい。（委員）

→ガラスは、透明は価値が高いが、色がまざってしまうと資源化率は下がる。埋めるわけにいかないことが大きな理由である。週１回収集ではそれほど量は出ないと思うので、工夫の余地としては、色別の袋にすると少しはましかもしれない。パッカー車の運搬と破砕選別施設のピットやヤードとの組み合わせなので、そこを工夫してなるべく割れないようにする。消費者は、細かい色分別は嫌がるが、透明のものだけ別にするのはできると思う。ただ、透明の瓶は何曜日と分けてしまうと混乱するが、袋を分けるだけならできると思う。袋が破れないのであれば圧倒的に作業性は高くなるし、間違いがあったとしても後の手選別の負荷は減る。（委員）

・市民感覚として、パッカー車が収集に来たときにコンテナから放り込まれて、バリバリと音がすると、本当に資源化されているのかと思う。瓶を資源化すると言ったときに、そこの説明をうまくしないといけない。（委員）

→今の素案ではコンテナ収集で週１回となっているが、現状ではコンテナを使うのは月６回であるので、それに４回プラスされる。高齢化が進んだり地域コミュニティの希薄化で当番の負担は増えているので、それを軽減するかなくすことも含めて検討していかなければいけない。今後議論を詰めていかないといけないと思っている。（事務局）

・缶・ペットボトルは同じ袋に入れるのか。今まで区別して出していたので、それでいいのかと思う。（委員）

→分別して収集するところに手間とコストをかけるのか、処理場で分けるほうにかけるのか、トータルで考えて市民の手間を減らすほうに落ち着いた。（事務局）

→今まで分けていたものを一緒でいいと言われても気持ちが悪い。（委員）

→今まで「もやさないごみ」として一緒に出していたものを３つに分けることになる。缶・ペットボトルを一緒に出すが、週１回収集になると、家にためておけなくてもやすごみ」の中にペットボトルを混ぜている方もきちんと分別してくれるかもしれないという期待をしている。（事務局）

→市民意識としては非常に大きな変化になる。（委員）
→コンテナ収集については、出し入れの手間はかかるが、そのまま出すので中をきれいにするといういい面がある。そこは難しい。（委員）
→パブリックコメントを実施することになっているので、寄せられた意見によって袋に変えるのかコンテナを継続するのかを決めていきたい。（事務局）

・今年度すぐにこの分別区分・収集形態になるわけではないので、今後も協議していきたい。（委員）

４．指定ごみ袋制度の導入について

①事務局から資料４、４－１、４－２、４－３により説明が行われた。

・生活系の「公平感」が、有料指定袋５、単純指定袋３、色指定３となっている。これはどうなのかという感じがしないでもない。バックデータは細かくとっているが、評価は整数なので大きな差になってしまう。生活系は単純指定袋が大きな差を付けているが、事業系は有料と単純にそれほど差がない。そう考えると、現状も処理手数料を払っている事業者にさらに有料指定袋をお願いする根拠がいかがかと思った。（委員）

・有料指定袋と単純指定袋の市民の理解度はどれぐらいなのか。西宮市民は袋を買う習慣がそれほどないので、単純指定袋も有料化として認識されてしまうのではないかと思うと、「有料化を伴わない指定ごみ袋制であれば実施してもよい」というアンケート回答は、単純指定袋をオーケーと言っているのかノーと言っているのかの解釈が難しくなる。（委員）

・ごみ減量等推進員は有料指定袋と単純指定袋の違いをよく分かっているが、定例の会議で袋の問題がよく出てくるようになってきた。その中では指定袋はするべきだという意見が多いが、単純指定袋しか話の進めようがないと感じる。収集方法や分別区分が変わると、ごみステーションのプレートの取替えや地区の人に対する説明会などいろいろな作業が必要になるし、各家庭での黒い袋のストックの絡みもある。計画ではあと２年しかないので、早く決めて住民に指導できる体制をとってほしいという要望が多い。（委員）、

・有料指定袋か単純指定袋かは生活系と事業系で意味合いが全然違う。生活系の場合は、何もない状況から指定すればその段階でごみは減る。神戸市でも、単純指定袋を導入したときには「有料化された」と市民はとらえていた。有料化による減量効果は、金額には比例せず、最初のショックの部分が大きい。そういう意味では、有料指定袋でよほど高い金額にしない限り、大差はないと思う。ただし、事業系は話が違う。現在でも市は手数料を取っているが、果たして排出事業者が払っている意識があるのかは疑問である。これはマンションも同じであるが、全国的には収集運搬業者との月決め契約が多く、排出事業者にはインセンティブが

ゼロである。そこに有料指定袋を入れると事業者は袋を節約しようと思うから効果がある。現在でも事業系はお金を取っているという認識を改めたほうがいい。（委員）

→その場合、排出事業者が収集事業者に「その分はおまえのところで見ろ」という話にならないか。（委員）

→我々は変更された制度を守ることが許可制度だと思っているが、行政からの説明を丁寧にしていただくことが必要だと思う。ただ、影響は多大にあると思う。（委員）

・今はごみストッカーに入れておいたものを収集業者が持っていくが、指定袋になるとどうなるのかが気になる。（委員）

→当然いろいろな問題が出てくると思うが、それは解決していかないといけない。（委員）

→袋を指定せずに有料化すると重さを管理しなければいけないので難しい。処理手数料は袋単位で払われるので透明になる。（委員）

・評価委員会は内部だけで行ったのか。評価であれば外部の人が入ったほうがよかったのではないか。また、期間はこの袋を指定した段階までなのか。（委員）

→本日の事務局案を作成するために評価委員会を市内部で行った。外部の方に入っていただく会議はこの部会である。なので、本日は、採点に修正すべき点があれば指摘してほしい。また、評価委員会は、事務局案を作成した段階で任務は終わっている。（事務局）

・75市１町にアンケートをとられたが、人口カバー率では色指定が一番多い。人口カバー率は評価に反映されているのか。（委員）

→人口カバー率は現在の傾向を見るだけで、評価として参考にするものではないと考えている。（事務局）

→それぞれの市にとって最善であると判断して各方式を採用されているので、評価に人口カバー率を入れてもいいと思う。（委員）

→評価項目の案については、前回の部会で確認されたものと考えている。（事務局）

→指定袋を採用していない市町村は近隣でどれぐらいあるのか。（委員）

→指定なしが３自治体あるが、西宮市、芦屋市、猪名川町である。中核市に限ると、指定なしは西宮市だけである。（事務局）

→人口カバー率という点から見ても、そこが大きいと思う。（委員）

・先ほど市民の声としては「早くやってくれ。周知してくれ」という話があったが、事業者にも減量すれば得になるというアピールが必要になってくる。（委員）

→前回説明したスケジュール案では、最短でも令和４年のスタートになるので、来年度に条例改正、令和３年度の１年間をかけて住民や事業者への説明会を行う。その他プラの分別収集を開始したときも１年間

かけて約450回地域で説明会を行った。今回は前回以上の大きな変化になるので、しっかりと説明していくべきだと考えている。（事務局）

・評価案の評価をこの部会で行うとすれば、事業系の僅差を客観的に評価することは難しい。この点数をベースに結論を出すことは、採点を少し変更して評価が逆転すればどうなるのかという問題もあり、個人的には苦しい。これは参考資料にして、「市としてはこれでいきたい」という強い意志表示が欲しい。この結果に部会で反対がなかったから正しい評価だという言い方は避けたいと思う。特に事業系も、収集運搬料と処理料が明確に分かれると、排出事業者の理解は得られるが、収集事業者はきつくなることもあり得る。だからこそ、この点数だけで決定せずに、市としてこの方針でいくと打ち出した上で、排出・収集事業者ともに相当配慮しないと難しいと思う。（委員）

→事業系が多く、これを減らさなければいけないのが西宮市にとっての喫緊の課題であることは共通認識として持っていただいていると思う。事務局としては、事業系は有料指定袋が一番効果的だと考えている。今回、減量効果について分析したが、事業系のほうはサンプル数が少ないのでばらつきが多い。ただ、有料指定袋では30％以上の減量効果があった市もあった。この結果だけをもとにするのではなく、トータルで考えて有料指定袋で進めるべきだというストーリーで進めていきたい。（事務局）

→それであれば、平均値で動くわけではなく、先進を目指すという意思を明確にしたほうがいい。（委員）

→「減量意識」で単純指定袋は４となっているが、私は０だと思っている。事実上、減量しても何も変わらないのなら減量意識は何も変わらない。それと比べれば、有料指定袋にすれば圧倒的に減量意識は上がる。このように点数を変えようと思えば変えられるが、それよりも強く方針を打ち出したほうがストーリーとしていいように思う。（委員）

→３つの手法のどれを軸にして市民に意見を求めるかは今後詰めていく。この部会は今年度はこれで最後だが、来年度の１回目でまとめて、それからパブリックコメントに入っていきたい。（事務局）

・最後に、生活系は単純指定袋、事業系は有料指定袋という方針に決定した。

５．処理手数料の改定について

①事務局から、資料５により説明が行われた後、次回に袋のサイズも含めて議論してほしいとの追加説明が行われた。

・次回に議論する際に、現状と袋を導入することによって価格はどうなるかを示してほしい。（委員）

→現在１袋平均何キロぐらいになっているのかを調査した上でデータを提示したい。（事務局）

６．その他、連絡事項

①事務局から、次回部会は令和２年５月ごろに開催予定であるとの報告が行われた。